

今月の表紙

下帯一枚の男衆が、厄年の男性を担いで堂内を駆け回って厄を落とすという「奇祭・毘沙門堂の胴押し」が、3日夜、月布施（両津）で繰り広げられました。6m四方の堂内にあるいろりで豆殻が燃やされると、数人がお堂の板戸をドン、ドンとたたき、それに合わせて担ぎ手が「やっさー、やっさー」と掛け声を出しながら厄年の男性を天井高く持ち上げました。その後、男性を抱えて火の回りを全力で走り回り、堂内の熱気は最高潮に。江戸時代以前から続いているという伝統行事はまだ健在です。



佐渡市に門松!プロジェクト 佐渡市初の正月を祝って

佐渡市吉住集落の有志により結成されたグループ（吉住86会）が、12月26日、市役所前に巨大門松を2基設置しました。この門松はすべて手作りで、材料も会員が手分けして集めたものです。門松の高さは「佐渡市」の語呂合わせで「佐」3「渡」10「市」4を合わせて3.14m。3.14は、円周率。この円周率にかけて、10の市町村が一つになった佐渡市が「円」満であることを願っています。

中越大地震の発生から、急きよ作ることになった「元氣出してやろうぜ!新潟・佐渡」と書いた羽子板も並べられ、「2005年がいい一年になるように」という思いが込められた立派な門松が出来上がりました。



平成16年度 コミュニティ助成事業

「わじぎふれあいはまなす会」（両津地区）では、自治宝くじの助成金であるコミュニティ助成事業の助成を受けて、地域住民や観光・旅館団体、ボランティアらと連携し、景勝地として有名な鷲崎のニッ亀近くで、雪割草の保全・増殖活動を行いました。

この地区には、雪割草や福寿草など山野草の自然群生地があり、同会は里山いっぱい咲く花々を夢見ながら、観光交流も含めた地域コミュニティの更

なる活性化を図っていくことにしています。



▲▲ 雪割草の保全増殖活動のようす



▲作業を終えて

※コミュニティ助成事業とは、(財)自治総合センターが、自治宝くじの普及広報事業費として受け入れる受託事業収入を財源とし、宝くじの普及広報を行うとともにコミュニティの健全な発展を図ることを目的に様々なコミュニティ活動に助成を行うものです。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

編集後記

初詣^{はつあき} みんなじつと手を合わせ、目を閉じてお祈りしている。カメラでその姿を追う。一人ひとりを見ながら、あの人は何を祈っているのだろうかと考え。小さいころの記憶。本当にかすかな記憶。雪の降るなか、父におんぶされて村の神社へ向かう自分がいる。雪の多い年だったような気がする。そうだとすると昭和38年の大雪のころか？
おさい銭を入れてガラガラと鈴を鳴らす。パンパンと威勢のいい拍手。気が付くと私はまた父の背中に。

私が今年、お願いしたことは、皆が健康でいてほしいということである。当たり前のことだが、この当たり前のことが何よりも尊いことなのだ。研修で知り合った小千谷の友達から年賀状は来なかった。おそらく賀状どころではないのだろう。
2005年、佐渡市の新春は「元氣」でスタートしよう。多くの人に元気をあげられるようになりたいと願いながら、カメラを持っていざ出発。

(伊)

新年あけましておめでとう
ございます。今年も西年ですが、トリといえば、トキの野生復帰に向けての活動が進められています。西年だからトキ、というのはちょっと安易な感じもしますが、二つのきっかけとして、一人ひとりが考えてみる良い機会ではないでしょうか。

(土)